

授業科目	社会福祉				
担当教員	仲田 勝美				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

授業の目的
 社会福祉の歴史の変遷、法律、制度を理解する。そして最近の社会福祉の動向と課題をとらえ、自分自身が社会の中の一員として生活していることを理解する。

- 授業の到達目標**
1. 社会福祉の理念、法律、制度を体系的に理解し、修得する
 2. 子どもや家族と関わる保育士として必要な社会福祉の基本的な考え方を学び修得する
 3. 対人援助者としての専門的な知識、技術などを学ぶための基本的な知識を修得する

自修について(予習・復習内容等)
 予習: 事前にテキストを読み理解しておくこと(毎回 2 時間)
 復習: 学んだことを振り返りノートを整理すること(毎回 2 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 社会福祉とは何か
2	社会福祉の理論と疑問
3	社会福祉の歴史 1 世界における社会福祉発達史
4	社会福祉の歴史 2 日本における社会福祉発達史
5	社会福祉における人権保障(権利擁護)
6	社会福祉における社会資源 1 社会福祉行政・社会福祉施設
7	社会福祉における社会資源 2 社会福祉専門職者・認知症サポーター
8	生活保護制度
9	公的介護保険制度 1 少子高齢社会への対応 (理論)
10	公的介護保険制度 2 少子高齢社会への対応 (実際)
11	地域福祉
12	障害者福祉制度
13	社会福祉における相談援助
14	児童福祉制度
15	まとめ~これからの社会福祉について考える~
16	なし

成績評価の方法・基準
 毎回のまとめシート 30%、まとめレポート 70%、計 100%

教科書
 『社会福祉と社会保障』 ナーシンググラフィカ

参考書・参考資料
 資料を適宜配布する

その他(学生へのアドバイス)
 講義内で用いる VTR についてその意義・意味をよく理解し、視聴すること。岡崎市の認知症サポーター講習を実施する。

授業科目	児童家庭福祉				
担当教員	仲田 勝美				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

授業の目的
 児童家庭福祉の理念と制度・政策の概要を理解し、現代の児童とその家庭の抱える課題解決方法を学び、保育の社会的機能のあり方を修得する

- 授業の到達目標**
- ・児童家庭福祉の意義、歴史の変遷を理解し、修得する
 - ・児童福祉の専門職としての保育の役割について、児童と家庭の支援方法について理解し、修得する

自修について(予習・復習内容等)
 予習: 事前にテキストを読んでおくこと(毎回 2 時間)
 復習: 学んだことをノートにまとめ整理しておく(毎回 2 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 児童家庭福祉とはなにか
2	少子・高齢社会における児童と家庭の実際
3	児童とその家庭の抱える問題とその支援方法
4	児童福祉法(1) 歴史の変遷
5	児童福祉法(2) 現在の制度枠組み
6	児童家庭福祉の思想と理念
7	児童の権利
8	児童虐待
9	児童福祉と子育て支援
10	児童家庭福祉における機関
11	障がい児の支援
12	児童および家庭に関する相談援助
13	ケースワーク等の相談援助技術
14	児童家庭福祉における支援の連携
15	まとめ(全体の復習)
16	なし

成績評価の方法・基準
 毎回のまとめシート 30%、まとめレポート 70%、計 100%

教科書
 「改訂 保育士を目指す人の児童家庭福祉」 みらい

参考書・参考資料
 「新版 子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房

その他(学生へのアドバイス)
 なし

授業科目	保育原理				
担当教員	矢藤 誠慈郎				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	○		◎	○	○

授業の目的
 保育所保育指針の十分な理解を中心として、その背景にある保育の理念、保育指針に示された概念、その根底にある思想や歴史、現状について学ぶ。以上の事柄を通じて、保育の専門職としての確かな知識の基盤を形成することを目的とする。

- 授業の到達目標**
- ①保育の意義について説明することができる。
 - ②保育所保育指針における保育の基本について説明することができる。
 - ③保育所保育指針における保育の目標と方法について具体的に説明することができる。
 - ④保育の思想と歴史の変遷について説明することができる。
 - ⑤保育の現状と課題について考察し、記述することができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ①教科書の次回の授業箇所を必ず読んで重要な点に下線を引く。(1.75 時間×13 回)
 - ②返却されたミニレポートを授業のノートを参照して見直す。(1.75 時間×13 回)
 - ③期末レポートについては、文献の調査を十分に行い執筆する。(15 時間)

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス—受講ルール、授業の目的と計画、評価の基準と方法
2	保育の理念と概念
3	保育の社会的役割と責任
4	保育の制度的位置づけ
5	保育所保育指針に基づく保育
6	保育の特性と保育実践
7	保護者支援
8	保育の目標と方法
9	保育の計画・実践および評価
10	諸外国の保育の思想と歴史①
11	諸外国の保育の思想と歴史②
12	日本の保育の思想と歴史①
13	日本の保育の思想と歴史②
14	諸外国の保育の現状と課題
15	学修の振り返りとまとめ
16	なし

成績評価の方法・基準
 授業各回のミニレポート(50%)、期末レポート(50%)、計 100%

教科書
 天野珠路・北野幸子編『保育原理』中央法規

参考書・参考資料
 「保育所保育指針」

その他(学生へのアドバイス)
 予習を行っている前提で授業を行うので、教科書を必ず読んで、質問に答えられるように準備しておいてください。

授業科目	保育課程論				
担当教員	渡部 努				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
 どのように保育を実践し、展開していくかを表すものとしての「保育の計画」について、その意味や必要性を理解すると共に、具体的にどのような計画を立てるのかを実践的に学ぶことを目的とする。
 また、「保育課程」や「指導計画」の基礎を理解し、計画・実践・評価・改善を繰り返す保育のプロセスを意識した保育実践を、指導計画の立案を通して、イメージできるようにすることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解し、自分の考えや意見を発言したり、文章で示したりすることができる。
 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に説明することができる。
 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を動的に捉え、指導計画や記録などを自分なりに工夫することができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- 毎回の授業につき予習・復習に 2 時間
 - 第 1～6 回、8～10 回、12～13 回、15 回のワークシート 各 1 時間
 - 長期の指導計画・乳児の指導計画・幼児の指導計画の作成として、それぞれ 4 時間 合計 12 時間
 - 試験準備として合計で 6 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、保育の意義
2	保育の基本と計画
3	「教育課程」「保育課程」とは
4	幼稚園・保育所の生活と乳幼児の理解
5	教育課程・保育課程、指導計画を考える上で必要なこと
6	教育課程・保育課程の編成から長期の指導計画へ
7	長期の指導計画の作成
8	短期の指導計画の作成のポイント
9	0, 1 歳児の指導計画の実際
10	2 歳児の指導計画の実際
11	乳児の指導計画の作成
12	3 歳児の指導計画の実際
13	4, 5 歳児の指導計画の実際
14	幼児の指導計画の作成
15	保育におけるPDCAサイクル、評価を保育実践に生かすとは
16	期末試験

成績評価の方法・基準
 ファイル提出 20%、課題、指導計画 40%、期末試験 40%、計 100%

教科書
 『教育課程・保育課程を学ぶ—子どもの幸せをめざす保育実践のために』
 松村和子 他著 ななみ書房

参考書・参考資料
 ○ 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館
 ○ 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館
 ○ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

- その他(学生へのアドバイス)**
- 配布したレジュメや資料は、整理して保存する。
 - 保育雑誌等に掲載されている保育の計画を参考にして、保育計画の立案のイメージができるようにしておくこと。

授業科目	乳児保育 I				
担当教員	太田 富士子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
「乳児保育 I」では、保育所をはじめとする保育施設における乳児保育の歴史と意義を理解することを目的とする。また、3歳未満児の養護と教育について基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等が説明できる。
2. 保育所及びその他の保育施設における乳児保育の現状と課題が説明できる。
3. 3歳未満児の発育・発達分かり、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びに必要な基本的な知識と技術を身につける。

自修について(予習・復習内容等)

- ・1～15 まで毎回の授業につき復習合計 9 時間
- ・12～15 回は試験準備で合計 3 時間
- ・参考文献等の読書 1 冊 1 時間 ・玩具作成合計 2 時間
- ・子育て支援等に関する新聞記事・情報を収集、レポート作成合計 2 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション・乳児保育の理念と歴史的変遷
2	乳児保育の役割と機能
3	保育所における乳児保育
4	乳児院・家庭的保育等における乳児保育
5	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
6	乳児の保育所での 1 日
7	乳児期の発達(からだ)の特徴と保育内容
8	乳児期の発達(こころ・ことば)の特徴と保育内容 事例 ことば
9	6 か月未満児の発達と保育内容
10	6 か月から1歳 3 か月未満児の発達
11	6 か月から1歳 3 か月未満児の保育内容 手作り玩具の作成
12	1 歳 3 か月から 2 歳未満児の発達
13	1 歳 3 か月から 2 歳未満児の保育内容 事例かみつきについて
14	2 歳児の発達
15	2 歳児の保育内容 事例友だちとの関わりについて
16	期末試験

成績評価の方法・基準
提出物やレポート 40%、期末試験 60%、計 100%

教科書
「はじめて学ぶ乳児保育」志村聡子編同文書院
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

参考書・参考資料
「乳児の発達と保育」エイデル研究所 「乳児保育」ミネルヴァ書房

その他(学生へのアドバイス)
配布した資料を整理保管すること。
授業に必要なものは必ず持参すること。

授業科目	乳児保育 II				
担当教員	太田 富士子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
「乳児保育 I」で学んだことを基盤に、3歳未満児の生活と遊びを創造するために必要な具体的な知識と技術を身につけることを目的とする。さらに実践記録の学びを通して、知識と技術を実践力に高めることを目指す。併せて乳児保育の今日的な状況を理解しより専門性を高めることを目的とする。

授業の到達目標

1. 乳児保育の指導計画の意義を理解し作成することができる。
2. 指導計画の展開に必要な具体的な保育の内容や援助の方法、環境構成等を理解し実際に作成することができる。
3. 観察・記録等について学び実際に観察記録や実践記録を記述することができる。
4. 保護者や関係機関との連携について学ぶとともに、乳児保育を巡る今日の状況や課題を理解しその解決に向けて意見を述べるができる。

自修について(予習・復習内容等)

- ・1～12 回まで毎回の授業につき復習合計 9 時間
- ・12～15 回は試験準備で合計 3 時間
- ・参考文献等の読書 1 冊 1 時間 ・玩具作成合計 2 時間
- ・乳児保育等に関する新聞記事・情報を収集、レポート作成合計 2 時間

回数	授業計画・内容
1	乳児の基本的生活(着脱・排泄清・清潔)の援助や関わり
2	乳児の基本的生活(栄養と食事)の援助や関わり
3	乳児の基本的生活(睡眠と生活リズム)の援助や関わり
4	乳児保育における安全・清潔管理
5	乳児の遊びと環境 手作り玩具作成
6	個々の発達を促す生活と環境 事例環境構成について
7	保育課程に基づく指導計画
8	指導計画の作成(0・1 歳児)
9	指導計画の作成(2 歳児)
10	観察と記録と自己評価 事例観察
11	保育士の専門性と職員協働
12	保護者とパートナーシップ 事例検討連絡帳について
13	特別な配慮を必要とする子の保育内容
14	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等の連携
15	乳児保育の今後の課題(まとめ)
16	期末試験

成績評価の方法・基準
提出物やレポート 50%、期末試験 50%、計 100%

教科書
「はじめて学ぶ乳児保育」志村聡子編同文書院
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

参考書・参考資料
「乳児保育」光生館 「0・1・2 歳児のこころの育ちと保育」小学館

その他(学生へのアドバイス)
配布した資料を整理保管すること。
授業に必要なものは必ず持参すること。

授業科目	基礎音楽Ⅰ				
担当教員	妹尾美智子・小野隆司・大山絵美				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
この授業では、保育者として音楽の楽しさを子どもに伝え、共に活動していくために必要とされる基礎的な演奏技術や音楽的知識、演奏難易度の低い幼児曲の音楽的構成について深く理解し、弾き歌いで必要とされるピアノの技術や歌唱技術における基礎的な技能や表現を習得することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. バイエル教則本の楽語について説明することができ、バイエル 100 番まで演奏することができる。
 2. バイエル終了者は、練習曲以外のピアノ曲を暗譜で演奏することができる。
 3. 簡易伴奏法のためのコードネーム(ハ長調)について、見譜で演奏することができる。
 4. 幼児曲(子どものうた村 A レベルの春・夏)について、暗譜で弾き歌いすることができる。

自修について(予習・復習内容等)
・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1時間以上)を毎日継続すること。
・課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。
・ゆっくり正確に楽譜通り演奏できるよう心がけましょう。

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス
2	楽譜の読み方
3	バイエル・幼児曲(こののぼり等)・音楽理論(音符の種類)
4	バイエル・幼児曲(ちようちよう等)・音楽理論(拍子・リズム)
5	バイエル・幼児曲(どんぐりころころ等)・音楽理論(速度を表す楽語)
6	バイエル・幼児曲(ぶんぶんぶん等)・音楽理論(強弱を表す楽語)
7	バイエル・幼児曲(かたつむり等)・音楽理論(表情を表す楽語)
8	前期中間まとめ・今後の学習課題について
9	バイエル・幼児曲(たなばたさま等)・音楽理論(演奏順序を表す楽語)
10	バイエル・幼児曲(あさのうた等)・音楽理論(音程)
11	バイエル・幼児曲(きんぎょのひるね等)・コード(コードの種類と調性)
12	バイエル・幼児曲(生活の歌から)・コード(ハ長調の主要三和音)
13	バイエル・幼児曲(どうぶつ(うた)の歌から)・コード(ハ長調のコード練習)
14	復習と確認
15	前期末まとめ・後期に向けた学習課題について
16	なし

成績評価の方法・基準
予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

教科書
「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)
「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)
「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

参考書・参考資料
バイエル教則本、ピアノキャンパス等

その他(学生へのアドバイス)
授業では、MLシステムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	基礎音楽Ⅱ				
担当教員	滝沢ほだか・大山絵美・原田裕貴				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
この授業では、「基礎音楽Ⅰ」での学修を踏まえ、保育者として音楽の楽しさを子どもに伝え、共に活動していくために必要とされる専門的な演奏技術や音楽的知識、様々な幼児曲の音楽的構成について深く理解し、豊かな音楽の表現に結び付くための、弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏における技術を習得することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. バイエル終了者は、練習曲以外のピアノ曲を暗譜で演奏することができる。
 2. 簡易伴奏法のためのコードネーム(ハ長調、ト長調)について、見譜で演奏することができる。
 3. 幼児曲(子どものうた村 A レベルの秋・冬)について、暗譜で弾き歌いすることができる。

自修について(予習・復習内容等)
・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1時間以上)を毎日継続すること。
・一回の授業につき、課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。
・ゆっくり正確に楽譜通り演奏できるよう心がけましょう。

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス
2	ピアノ曲・幼児曲(せんせいとおともだち等)・コード(ハ長調の主要三和音)
3	ピアノ曲・幼児曲(大きなくりの木の下で 等)・コード(ハ長調の練習)
4	ピアノ曲・幼児曲(とんぼのめがね等)・簡易伴奏(ハ長調コードの応用)
5	ピアノ曲・幼児曲(まつぼっくり等)・コード(ト長調の主要三和音)
6	ピアノ曲・幼児曲(こぎつね等)・コード(ト長調の練習)
7	ピアノ曲・幼児曲(おかえりのうた等)・簡易伴奏(ト長調コードの応用)
8	後期中間まとめ・今後の学習課題について
9	学生音楽祭(音楽鑑賞)
10	ピアノ曲・幼児曲(ジングルベル等)・コード(まとめ)
11	ピアノ曲・幼児曲(たきび等)・簡易伴奏(ハ長調の幼児曲)
12	ピアノ曲・幼児曲(ぞうさん等)・簡易伴奏(ハ長調の幼児曲)
13	ピアノ曲・幼児曲(おべんとう等)・簡易伴奏(ト長調の幼児曲)
14	ピアノ曲・幼児曲(さよならのうた・手をたたきましょう等)・簡易伴奏(応用)
15	後期末まとめ・幼児音楽Ⅰに向けた学習課題について
16	なし

成績評価の方法・基準
予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

教科書
「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)
「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)
「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

参考書・参考資料
バイエル教則本、ピアノキャンパス等

その他(学生へのアドバイス)
授業では、MLシステムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	幼児造形 I				
担当教員	米窪 洋介				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的

この授業は、様々な演習課題を通して、子どもの造形活動の意義や目的について理解を深めると同時に、子どもの造形的発達段階についての知識を得ることを目的とする。

また、使用する材料や用具の特質を活かした製法を身につけ、材料や用具の選択、準備など造形活動の指導法についても考える。

- 授業の到達目標**
1. 子どもの造形活動の意義・目的について説明することができる。
 2. 子どもの造形的発達段階について説明することができる。
 3. 使用する材料や用具の特質を活かして製作をすることができる。
 4. 造形活動の指導法について考えることができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・ 毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること (0.5時間)
 - ・ 各課題終了後には、ワークシートをまとめること (合計 6時間)
 - ・ 最終授業後に全 15 回の振り返りをレポートにまとめること (1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション (子どもの造形的発達段階について)
2	マーブリング (製作方法と現場での活用について、実践)
3	スパッタリング (製作方法と現場での活用について、実践)
4	パチック、ドリッピング (製作方法と現場での活用について、実践)
5	デカルコマニー、ストリングデザイン (製作方法と現場での活用について、実践)
6	フロッタージュ (製作方法と現場での活用について、実践)
7	絵本づくり① (製作方法と現場での活用、デザイン)
8	絵本づくり② (製作)
9	絵本づくり③ (仕上げ)
10	モビール① (製作方法と現場での活用について、デザイン)
11	モビール② (製作)
12	モビール③ (仕上げ)
13	おめん① (製作方法と現場での活用について、土台製作)
14	おめん② (装飾)
15	おめん③ (仕上げ)
16	なし

成績評価の方法・基準

ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

教科書

「造形のじかん」愛智出版

参考書・参考資料

適宜、授業内で配布

その他(学生へのアドバイス)

- ・ 絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること
- ・ オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること
- ・ 構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと

授業科目	基礎造形				
担当教員	横田 典子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的

造形活動を通して、保育者としての基礎的な技術技能を身につけるとともに、さまざまな素材による表現手法を習得することをねらいとする。また、子どもと共にものを作ることの喜びを共感するために、「創作することの楽しさ」や「表現することの素晴らしさ」などを、自らの造形活動を通して体感することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 造形活動における基礎的な技術技能を用いて製作することができる。
 2. 材料の特質や用具・道具類の使用方法を説明することができる。
 3. 創作活動の意義や目的を理解することができる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・ 毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること (0.5時間)
 - ・ 各課題終了後には、ワークシートをまとめること (合計 6時間)
 - ・ 最終授業後に全 15 回の振り返りをレポートにまとめること (1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション (造形活動の意味や目的について)
2	切り紙
3	切染め紙
4	手紙づくり① (製作方法と現場での活用について、紙すき)
5	手紙づくり② (スタンプ制作)
6	手紙づくり③ (封筒づくり)
7	段ボール用いた制作① (製作方法と現場での活用について、デザイン)
8	段ボールを用いた制作② (制作)
9	段ボールを用いた制作③ (着色)
10	段ボールを用いた制作④ (仕上げ)
11	粘土あそび (粘土の特徴と現場での活用について、実践)
12	土鈴①成形
13	土鈴②仕上げ
14	マグカップ①成形
15	マグカップ②仕上げ
16	なし

成績評価の方法・基準

ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

教科書

「造形のじかん」愛智出版

参考書・参考資料

適宜授業内で配布

その他(学生へのアドバイス)

- ・ 絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること
- ・ オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること
- ・ 構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと

授業科目	基礎演習				
担当教員	鈴木穂波・野田美樹				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			◎

授業の目的
 保育者を目指す大学生として2年間の学びに包括的な展望を持ち、学修をより有効なものにするために、①大学で学ぶために必要な基本的な学修技術、礼儀やマナーを実践的に習得する②豊かな人間関係を築くためにコミュニケーションや表現力の基礎を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標
 1、 自分自身と向き合い、自分のことを様々な形で表現することができる
 2、 2年間の学びに見通しをもつことができる
 3、 大学生として相応しい「聞く、読む、話す、書く、調べる、伝える、まとめる」ことができる

自修について(予習・復習内容等)
 ・毎時授業で課された課題を1時間程度行う(ワークシートの記入、レポート作成、実技課題等)
 ・保育者として必要なマナーや礼儀について興味関心を持ち、自分の不足している力を補えるように生活の中で30分～1時間程度意識して行動する努力をする

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 『大学で学ぶ』ということはどういうことか
2	「話し方」について学ぶ
3	「聞き方」について学ぶ
4	「話し方」「聞き方」のまとめ
5	2年間の学びの展望を持つ(基礎学力試験、目標設定)
6	「調べ方」について学ぶ
7	「書き方」について学ぶ
8	「読み方」について学ぶ
9	「調べ方」「書き方」「読み方」のまとめ
10	「まとめ方」について学ぶ
11	「伝え方」について学ぶ
12	「まとめ方」「伝え方」のまとめ
13	グループワーク1(企画)
14	グループワーク2(実践)
15	グループワーク3(発表) まとめ
16	なし

成績評価の方法・基準
 ワークシート、レポートなどの提出物 50%、
 制作物、実践、発表内容 50%、
 計 100%

教科書
 必要な資料は随時配布する

参考書・参考資料
 『保育の学び スタートブック』 久富陽子 萌文書林
 『保育者になるための国語表現』 田上貞一郎 萌文書林

その他(学生へのアドバイス)
 ・授業内容によって教室が変更になる場合があるため、担当者からの連絡、掲示に注意すること
 ・材料や持ち物、服装など担当者より指示があった場合は準備をする(準備を怠った場合、受講が認められない場合があるので注意する)

授業科目	保育研究 I				
担当教員	鳥居 恵治				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎	○	○

授業の目的
 保育者としての専門的な知識・技能を実践につなげていくために、幼児教育祭への参加を通じて、次のことがらに取り組む
 (1) 子どもが自主的、主体的に楽しもうと思うためには、どのような遊びを企画し、どのように援助することが必要か理解を深める。
 (2) 共同作業の必要性を理解し、実践することができる力を身につける。

授業の到達目標
 1. 子どもが興味・関心を持つためにはどのような援助や工夫が必要か理解する。
 2. 協働して企画を実践するために必要な考え方や、グループワークにおけるスキルを身につけ、工夫することができる。

自修について(予習・復習内容等)
 ・1～8については、収集した資料の整理を行う。
 ・9～13については、時間内にできなかった製作を行う。
 (合計 15 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	子どもの遊びと援助
3	グループワークについて
4	グループによる教材研究(1)内容の決定
5	グループによる教材研究(2)企画
6	グループによる教材研究(3)配慮する点や援助の仕方
7	グループによる教材研究(4)資料作り
8	グループによる教材研究(5)発表
9	幼児教育祭の準備(1)企画の立案
10	幼児教育祭の準備(2)製作
11	幼児教育祭の準備(3)製作
12	幼児教育祭の準備(4)製作
13	幼児教育祭の準備(5)当日の準備
14	幼児教育祭の参加 1日目
15	幼児教育祭の参加 2日目
16	なし

成績評価の方法・基準
 授業ごとのワークシート 40%、発表・レポート 60%、計 100%

教科書

参考書・参考資料
 随時資料を配布

その他(学生へのアドバイス)
 グループワークにおいては、グループの一員として責任を果たすこと。

授業科目	保育者論				
担当教員	大倉 健太郎				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

授業科目	教育原理				
担当教員	大倉 健太郎				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎		

授業の目的
 本授業は、保育という職業に必要な知識や技能、倫理といった専門性について学び、保育職への責任、子どもに対する理解や共感、そして保育現場の実際について把握することを目指す。

- 授業の到達目標**
1. 保育者の役割について多角的に説明できる。
 2. 保育者に必要な基礎的知識とは何か説明できる。
 3. 保育者に求められる倫理観について説明できる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
1. 事前にテキストに目を通し、わからないこと等を列挙しておく(毎時2時間)
 2. 授業の内容を振り返り、次への課題を自分なりに整理する(毎時2時間)

回数	授業計画・内容
1	保育者になるということ(免許・資格について)
2	保育者になるということ(資質について)
3	保育者の一日(一日の流れについて)
4	保育者の一日(給食、午睡、お迎え、職員会議について)
5	子どもの思いや育ちを理解する仕事(子ども理解について)
6	子どもの思いや育ちを理解する仕事(エピソード記録の活用)
7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(幼稚園の場合)
8	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(保育所の場合)
9	保育者に必要な力量、役割等の中間まとめ
10	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事
11	保護者や学校と一緒に歩む仕事(保護者支援について)
12	保護者や学校と一緒に歩む仕事(地域育で支援について)
13	学び合う保育者(保育者の成長と省察について)
14	学び合う保育者(同僚性について)
15	保育者の専門性とは何か(総括)
16	なし

成績評価の方法・基準
 中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

教科書
 汐見・大豆生田編『保育者論』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料
 資料プリントを配布することがある。

その他(学生へのアドバイス)
 15回すべての授業に出席するよう努めること。2単位の取得には、60時間の予習復習が求められており、本授業はすべての学生が予習してきているものとして進められることを理解しておくこと。
 最終回後に、この授業で学んだことをまとめ、保育・教職実践演習(幼)等に備えること。

授業の目的
 主に、明治期から今日までの学校(園)をめぐる諸問題を通じて、教育とはなにかを問い、自分なりの教育観を確立することを目的とする。また、教育資(史)料や答申等を活用し、教育を取り巻く環境や学校の制度や仕組みについて理解を深めていく。

- 授業の到達目標**
1. 近代教育の理念や目的を説明できる。
 2. わが国における公教育の歴史を説明できる。
 3. 五領域を中心とした教育活動(学級経営)を説明できる。
 4. 自身の教育観や子ども観について説明できる。

- 自修について(予習・復習内容等)**
1. 事前にテキストに目を通し、提出用ワークシート等を完成する(毎時2時間)
 2. 授業の内容を振り返り、自習用ワークシート等をまとめる(毎時2時間)

回数	授業計画・内容
1	「教育原理」について
2	わが国および諸外国の近代的人間観と近代教育の理念および制度
3	わが国および諸外国の公教育の歴史、そして学校の誕生
4	人間の主体性と可能性の「発見」
5	発達と社会化
6	家庭、学校(園)、社会の教育的関係
7	近代的人間観および近代的教育の意味するもの(中間のまとめ)
8	学級経営と教育の方法
9	教育評価、および保育の記録
10	ポートフォリオ評価とルーブリック
11	個別学習と一斉学習
12	教育委員会制度とレイマン・コントロール
13	学校(園)制度と教師(保育者)との関係
14	特別支援教育
15	今後の公教育への期待と役割(総括)
16	期末試験

成績評価の方法・基準
 ・提出物の提出 20%
 ・中間試験 40%、期末試験 40%、計 100%

教科書
 大学教育実践研究会編『教育を考える』相川書房

参考書・参考資料
 随時、授業にて資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス)
 15回すべての授業に出席するよう努めること。2単位の取得には、60時間の予習復習が求められており、本授業はすべての学生が予習してきているものとして進められることを理解しておくこと。
 最終回後に、この授業で学んだことをまとめ、保育・教職実践演習(幼)等に備えること。

授業科目	発達と教育の心理学				
担当教員	丸山 笑里佳				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	

授業の目的
 保育者として発達を学ぶことは、子どもの安全への配慮や子どもの理解、援助をしていく上で重要である。この授業では、子どもと関わる際に必要な、子どもの発達についての基礎的な知識や概念を習得することを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。
 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深める。
 3. 子どもが人と相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。
 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。

自修について(予習・復習内容等)
 1～14 回まで毎回の授業につき予習復習等1時間
 授業の範囲について、各自教科書を読み、復習を行う
 14 回目 試験準備として1時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション: 保育と心理学
2	子どもの発達理解(1)子どもの発達と環境
3	子どもの発達理解(2)身体的機能と運動機能の発達
4	子どもの発達理解(3)知覚と認知の発達
5	子どもの発達理解(4)言葉の発達と社会性
6	子どもの発達理解(5)感情の発達と自我の発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達(1) 母子関係とアタッチメント、基本的信頼感の獲得
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達(2) 社会的相互作用: 遊びと仲間関係の発達
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達(3) 動機づけと学習のメカニズム
10	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(1) 生涯発達と発達援助、心理社会的発達理論
11	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(2) 胎児期、新生児期の発達
12	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(3) 乳幼児期の発達
13	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(4) 児童期、青年期の発達
14	生涯発達のプロセスと初期経験の重要性(5) 成人期、老年期の発達
15	まとめ
16	なし

成績評価の方法・基準
 筆記試験 80%、ブリーフレポート 20%、計 100%

教科書
 『保育の心理学 第2版』 ナカニシヤ出版

参考書・参考資料
 毎回資料を配布または提示する。

その他(学生へのアドバイス)
 配布された資料は整理し、毎回持参すること。

授業科目	保育内容総論				
担当教員	渡部 努				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
 乳幼児の健全な成長は「領域」や「活動内容」の枠を越えて遊びや生活を通して総合的に営まれていることを知り、保育内容や保育方法が園生活においてどのような仕組みで子どもたちの発達を支えているのかについて理解することを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の保育内容を理解するとともに各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造について説明することができる
 - (2) 子どもや子どもの集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりを説明することができる
 - (3) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践の場面と繋げて考えることができる
 - (4) 保育の多様な展開について具体的に説明することができる

自修について(予習・復習内容等)
 ○ 毎回の授業につき、授業内容の振り返り 30分
 ○ 6～9 回 ワークシートの作成 各 45分
 ○ 確認テスト、期末試験の試験準備として合計 5 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 保育内容の理解
2	遊びや生活を通しての学ぶということ
3	保育所の役割と保育内容
4	幼稚園の役割と保育内容
5	保育内容を展開するプロセス 確認テスト
6	0 から 2 歳児の保育内容とその展開
7	3 歳児の保育内容とその展開
8	4 歳児の保育内容とその展開
9	5 歳児の保育内容とその展開
10	異年齢時の保育内容とその展開 確認テスト
11	子どもの遊びと保育方法の実際
12	保幼小連携を創造する保育内容
13	子育て支援を創造する保育内容
14	地域に開かれた保育所・幼稚園を創造する保育内容
15	これからの保育内容の課題
16	期末試験

成績評価の方法・基準
 提出物(10%)、確認テスト(20%)、期末試験(70%)、計 100%

教科書
 『実践を創造する 演習・保育内容総論』 豊田和子他編 みらい

- 参考書・参考資料**
- 『保育内容総論[第2版]』 大豆生田啓友他編 ミネルヴァ書房
 - 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館
 - 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館
 - 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

その他(学生へのアドバイス)
 配布したレジュメや資料は、整理して保存する。

授業科目	保育内容演習(言葉)				
担当教員	鈴木 穂波				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
言葉は、子どもの発達や育ちを考えるうえで重要な役割を担う。領域「言葉」のねらいと内容について知り、乳幼児期の言葉の発達を促すための保育者の役割を理解し、実践できる力を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標
①領域「言葉」のねらいと内容について説明することができる。
②領域「言葉」のねらいに沿って、言葉の発達を促すための保育者の役割について、自分の考えを文章等で示すことができる。
③子どもの言葉の発達を促すための技術の基礎を身に付け、その方法を工夫することができる。

自修について(予習・復習内容等)
毎回の授業につき、予習(試験準備含む)・復習(ワークシート作成等) 1時間。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、領域「言葉」のねらい
2	子どもはどのように言葉を身に付けていくか(1)言葉を身に付けるとはどういうことなのか
3	子どもはどのように言葉を身に付けていくか(2)言語前期
4	乳幼児期における言葉の発達と援助(1) 0 歳児
5	乳幼児期における言葉の発達と援助(2) 1 歳児
6	乳幼児期における言葉の発達と援助(3) 2 歳児
7	乳幼児期における言葉の発達と援助(4) 3 歳児
8	乳幼児期における言葉の発達と援助(5) 4 歳児
9	乳幼児期における言葉の発達と援助(6) 5～6 歳児
10	中間まとめ
11	言葉の発達を促す援助をどう考えるか—保育の計画や実践—
12	言葉が育つ環境と文化財(1)絵本の読み聞かせ
13	言葉が育つ環境と文化財(2)紙芝居
14	言葉が育つ環境と文化財(3)ことばで遊ぶ
15	期末まとめ
16	なし

成績評価の方法・基準
毎時のワークシート 40%、筆記試験 60%、計 100%

教科書
『保育内容 ことば』成田徹男／編 みらい

参考書・参考資料

随時提示

その他(学生へのアドバイス)

授業科目	保育内容演習(言葉)				
担当教員	小野 孝美				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

授業の目的
領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、保育現場で乳幼児の様々な言葉に接した時に、それを理解し適切な対応ができるよう、乳幼児の言葉の発達の過程について理解する。また、言葉の発達を促すための保育者の役割を理解し、保育の場を想定した基本的な教材の理解や実践力を身につける。

授業の到達目標
領域「言葉」のねらいと内容、及び乳幼児の言葉の発達過程を理解する。そのねらいに沿って、言葉の発達を促すための保育者の役割を知り、基本的な指導法を身につける。言葉の発達を促すための基本的な教材を知り、技術を身に付け、その方法を工夫することができる。

自修について(予習・復習内容等)
児童文化教材に触れながら、なぜ、幼児に児童文化教材が必要かを理解する。伝承あそび、言葉あそび、絵本、ペープサート、紙芝居、牛乳パック、画用紙など廃材を利用して作成し、演じる。(合計 12 時間)
絵本を読むことで選んだ理由、話の内容を理解して絵本ノートを作成する。(合計 3 時間)

回数	授業計画・内容
1	保育内容「言葉」の授業のねらい、目標、内容について
2	幼児と言葉について・・・幼児教育と保育内容「言葉」とは
3	領域「言葉」のねらいと内容 — 保育所保育指針
4	領域「言葉」のねらいと内容 — 幼稚園教育要領
5	乳幼児期における言葉の発達 — 喃語 ・ 吃音 ・ 一語文 ・ 質問期
6	コミュニケーションの道具である言葉とは・・・
7	言葉と環境 ・ 保育者と言葉環境
8	話し言葉と環境 ・ 人的環境の影響
9	言葉の発達を促す援助 — 保育計画や実践から考える
10	言葉の発達を促す援助 — 保育者の言葉 ・ 子どもとの関わり
11	保育者による言葉の発達の指導、支援について — 観察、受容、支援など
12	児童文化教材と実践 — 教材の必要性、教材づくり
13	子どもの言葉の習得を援助する技術—手遊び ・ 絵かき歌 ・ 紙芝居
14	子どもの言葉の習得を援助する技術—詩 ・ 素話 (おはなし)
15	子どもの言葉の習得を援助する技術—保育の場を想定した実践
16	期末試験

成績評価の方法・基準
提出物(製作物を含む)提出・グループ発表・絵本ノート作成、授業での発言内容ほか 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験(テキスト・ノート持ち込み可)70%、計 100%

教科書
『新時代の保育双書保育内容 ことば』第 2 版 成田 徹男 みらい

参考書・参考資料
『幼稚園教育要領』平成 20 年告示 文部科学省フレーベル館
『保育所保育指針』平成 20 年告示 厚生労働省フレーベル館
『子育てに絵本を』山崎 翠 エイデル研究所

その他(学生へのアドバイス)
紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおく。

授業科目	幼児理解の理論と方法				
担当教員	小原 倫子				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	

授業の目的
 子どもの発達とは、心身の成長に伴い自らの能動性を発揮する状況の中で環境と関わり合いながら、自律的に生きていくために必要な能力や態度を獲得していく過程である。そのような子どもの発達を支える保育者の専門職として、発達、教育、臨床的側面から子どもを理解する方法と評価について修得する。更に、一人ひとりの子どもの発達の可能性を促す温かい視点とは何かについて考察し、子どもを教育するための自らの視点の獲得を目的とする。

授業の到達目標
 1. 子どもを理解することの意味や大切さについて考えるための様々な視点や方法について修得し、「一人一人に応じる保育の在り方」について説明することができる。
 2. 保育場面で具体的な援助が行えるよう、事例を通して実践的な力を身につける。さらにより適切な関わりへと進めるための保育の評価方法についても説明することができる。
 3. 子どもを取り巻く家庭の今日的な状況や問題なども視野に入れ、現代社会に生きる子どもの伸びゆく可能性を育むための、総合的な理解と援助が行えるような保育の工夫について説明することができる。

自修について(予習・復習内容等)
 各回の講義内容に即した課題についてのレポートを講義後に作成(4時間×15回)。

回数	授業計画・内容
1	現代社会における子どもの育ち、子育て、保育の現状を知る
2	発達的な視点からの「子どもの理解」
3	教育・保育的な視点からの「子どもの理解」
4	臨床的な視点からの「子どもの理解」
5	幼児期の発達の特徴と発達過程を理解する
6	幼児期の発達の個人差について学び、保育場面での個人差への配慮について考える
7	「子どもを理解する」ための観察と記録の方法について学ぶ
8	「子どもを理解する」ための保育カンファレンス:保育カンファレンスの特徴や方法について学び、その意味について考える
9	「子どもを理解する」ための保育カンファレンス:子どもの発達の理解と保育者の関わり方の両側面から、評価する視点を学ぶ
10	3歳児の実践事例に基づき「子どもの理解と評価」の具体的な方法を検討し、要点を学ぶ
11	4歳児の実践事例に基づき「子どもの理解と評価」の具体的な方法を検討し、要点を学ぶ
12	5歳児の実践事例に基づき「子どもの理解と評価」の具体的な方法を検討し、要点を学ぶ
13	障がいのある子どもの発達過程について学び、理解を深める
14	子ども理解におけるカウンセリングマインドについて学ぶ
15	子育て支援、家庭支援における子どもを取り巻く環境の現状や問題などについて学ぶことで、子どもの可能性を育むための総合的な理解と援助のための新たな課題は何かを考える。また、その課題に応えるための保育者の役割についても検討する。
16	なし

成績評価の方法・基準
 期末試験 80%、レポート 20%、計 100%

教科書
 使用しない。毎回資料を配布又は、提示する。

参考書・参考資料
 なし

その他(学生へのアドバイス)
 授業内容に関する積極的な質問や議論を歓迎する。

授業科目	教育実習(事前・事後指導を含む。)				
担当教員	西川由美子・渡部努				
開講時期	—	講義形態	実習	単位数	5単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

授業の目的
 事前指導では、幼稚園の概要や「幼稚園見学実習」に向けて必要な心構えや、書類・記録の作成の方法を学ぶことを目的とする
 実習では、幼稚園の役割や機能を具体的に理解し、保育者の業務内容や子どもの興味・関心、環境へのかかわり方、遊びの実態などを観察や子どものかかわりを通して実践することを目的とする
 事後指導では、実習の振り返りが「幼稚園本実習」への課題に繋がるような省察ができるようにすることを目的とする

授業の到達目標
 (1) 教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる
 (2) 「見学実習」の内容を理解し、自らの課題を文章化できる
 (3) 幼稚園の生活・機能、保育者の役割について理解し、説明することができる
 (4) 子どもの遊びや活動に積極的にかかわることができる
 (5) 事後指導を通して自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし、文章化できる

自修について(予習・復習内容等)
 実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと
 止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う

回数	授業計画・内容
	【事前指導の主な内容】
	教育実習の意義(目的・概要)、見学実習の内容と課題の明確化
	幼稚園の特徴や子どもの生活、子ども理解
	実習に際しての留意事項、心構え、書類作成
	実習の計画と実習記録
	現地オリエンテーション
	【見学実習の主な内容】
	幼稚園の一週間の生活の流れや子どもの遊びについての理解
	子ども同士、保育者と子どもとのかかわりの理解
	保育者の役割を見学・観察から理解
	保育のための準備・環境構成における保育者の仕事内容の把握
	【事後指導の主な内容】
	実習の総括と自己評価
	「幼稚園本実習」に向けた課題の明確化

成績評価の方法・基準
 実習園の評価 50%、提出物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

教科書
 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説書』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』 愛智出版
 『保育の計画と方法(第3版)』 同文書院

参考書・参考資料
 『実習の手引き』

その他(学生へのアドバイス)
 授業内で配付する資料は規定の「授業ファイル」に整理して綴じ、授業終了時に提出する。「実習記録」は実習後に提出する
 「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する

